

●THUNDERBIRD® SYBR® qPCR Mixの使用条件 [Agilent Technologies AriaMx] (Fast mode)

(1)反応液の調製

以下に、25 μLおよび20 μL反応時の調製例を示します。

試薬	25μL反応	20μL反応	最終濃度
滅菌水	X μL	X μL	
THUNDERBIRD® SYBR® qPCR Mix	12.5 μL	10 μL	1x
Forward Primer	7.5 pmol	6 pmol	0.3 μM*1
Reverse Primer	7.5 pmol	6 pmol	0.3 μM*1
50X ROX reference dye	0.05 μL	0.04 μL	1x
DNA溶液	Y μL	Y μL	
合計液量	25 μL	20 μL	

*1: 増幅効率が不十分な場合は、プライマー濃度を増やすことで、また非特異反応が発生する場合は、プライマー濃度を減らすことで、反応結果が改善することがあります。
プライマー濃度は、最終濃度0.2~0.6 μMを目安にご検討ください。

(2)PCRサイクル条件設定

ステップ	温度	時間	昇降速度	
初期変性	95° C	60秒	最大	
PCR (40 cycles)	変性	95° C	5~15秒	最大
	伸長	60° C*2	20~30秒	最大
(Data Collectionは伸長ステップに設定します)				
融解曲線分析 (Melting / Dissociation Curve Analysis)				

*2: 十分な増幅効率が得られない場合は温度を低めに、非特異的の反応が発生する場合は温度を高めに設定することで、反応が改善されることがあります。56~64°Cの範囲を目安にご検討ください。